

会 議 録

会議の名称	平成30年度 第1回行田市行政改革推進委員会
開催日時	平成30年7月6日(金) 開会：午前10時00分 閉会：午前11時45分
開催場所	市役所203会議室
出席者氏名	阿久津彰男会長、大久保 毅委員、大野久美子委員、小林友明委員、羽賀 烈委員、政田光生委員、宮田淑尚委員、茂木奈賀子委員
欠席者氏名	
事務局	改革推進室：五十嵐室長、酒井主幹、坂本主査
会議内容	議事 (1) 行田市行財政改革プログラム平成29年度取組実績について (2) その他
会議資料	○行田市行政改革推進委員会委員名簿【資料1】 ○行田市行政改革推進委員会設置条例【資料2】 ○行田市行財政改革プログラム(平成29年度取組実績)【資料3】
その他必要事項	傍聴者 1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育委員会議推薦委員の欠員について説明。 ・ 配布資料の確認。
阿久津会長	<p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会設置条例第 5 条の規定に基づき、会長に議事の進行をお願いする。
阿久津議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暫時、議長を務めさせていただく。議事の円滑な進行に皆様のご協力をお願いする。 ・ 会議の公開について確認させていただく。本日の「平成 30 年度第 1 回行田市行政改革推進委員会」では、議事の中で個人情報を取り扱う予定がない等のことから、本日の会議は公開とする。また、会議録については要点筆記とし、委員名を明記のうえ、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて後日公開する。 ・ 議事の(1)「行田市行財政改革プログラム平成 29 年度取組実績」について、事務局の説明を求める。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 3 「行田市行財政改革プログラム」（平成 29 年度取組実績）の内、進捗状況及び財政効果の歳入確保・歳出削減について説明。
阿久津会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局の説明に対し、ご意見・ご質問があったらお願いする。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の財政効果が約 7 億円、今年の財政効果が約 4 億円、その差約 3 億円の差の主なものは何か。 ・ ふるさと納税の効果額は、市にふるさと納税として寄付された額なのか、また、返礼品他事務費等を差し引いたものなのか、さらに税制の効果を入れているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の財政効果の差の大きな要因は、ハナホテル用地の売却があったことによるものである。

<p>政田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと納税に対する支出として、返礼品、郵便振替手数料、管理業務委託料、ポータルサイト及びクレジット関係経費等を計上し、これらを差し引いた額を効果額としている。他市町村への寄附による税収のマイナス分は計上していない。 ・ 3 ページに市税、税外債権の徴収強化とあるが、市税の徴収において、どのような徴収対策をしているのか。 ・ 介護保険や後期高齢者医療保険は、年金からの特別徴収という手法がとられている。公平性の観点から、是非とも強力にお願いしたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徴収強化の対策として滞納処分がある。滞納処分は、預貯金、動産・不動産の差押え等である。差押えすることで滞納者を減らすきっかけになっている。 <p>行田市は、積極的な滞納処分を行い3年連続して個人住民税の納税率を大幅に向上できたとして、埼玉県知事より功績表彰を過去に受けている。</p> <p>その事からも、徴収強化が図れているものと考ええる。</p>
<p>茂木委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ページの小中学校の給食費の見直しの中で450円上げたという説明があったが、給食の質の向上を図ったのか、それとも増加する準要保護家庭とのバランスで上げたのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食費450円の値上げについて、給食センターからは、過去の消費税増税や物価の上昇に対応した改定をしていないことから、消費税相当の値上げをしたものと伺っている。準要保護家庭の増加に伴うものではない。
<p>大久保委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果の出し方として、継続的な効果という考え方に疑問がある。太陽光発電事業もそうであるが、単年度で考えるべきではないか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムは、平成 26 年度から平成 32 年度までの 7 年間の計画期間としており、策定当時の目標額算出方法と同様に効果額を算出しなければならないため、ご理解いただきたい。
宮田委員	<ul style="list-style-type: none"> 37 ページの企業立地の用地確保及び企業立地奨励金事業の推進として、若小玉地区に新たに用地を取得するようであるが、これは県の事業か、市の事業か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 県の事業である。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> 43 ページの出資法人等の見直しにおいて、いきいき財団への補助金については、問題視しながらずっと協議を進めてきた結果として廃止したことは評価すべきことだと思う。この結果は、平成 29 年度の効果額に含まれているのか。 冒頭、遅れている項目が 7 項目との説明があった。一部出資法人等に対しての見直しは、これまで遅々として進んでないように見えるところもある。行田市は今後どのように取り組んでいくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 所管課に確認の上、皆様に改めて回答する。(別紙のとおり)
政田委員	<ul style="list-style-type: none"> 40 ページに職員定員管理の適正化とあるが、適正化というのは、何をもって適正化というのか。いかに人件費を減らすかが大事である。給与情報は、年に 1 度市報に掲載されるが、人員の配置は、掲載されない。職員数の推移を調べてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 小林委員のご質問と同様、改めて回答する。(別紙のとおり) これまでの組織の簡素・合理化の視点から、職員数について総括的に説明させてもらう。過去において本市は、職名をもって各課の事務を回していたが、平成 18・19 年頃から係制を廃止、担当制を導入し、係付けの人事配置から課付けの人事配置に変更した。これは、職員数の削減に取り組んでいた本市が、課の中での職員の流動的活

用を図り、職員数の減少に対応しようとしたものである。併せて事務事業の見直し、民間委託、OA化の推進など市民サービスを低下させないように努めながら、職員数の削減に取り組んできたところである。しかし、現状では職員数の削減が進みすぎて、市民サービスの低下を招くとともに、職員一人当たりの業務量の増加により健康を害する職員が増えている。また、退職者数不補充（新規採用職員の抑制）の時代もある中で、職員の年齢構成の偏りや専門職不足が発生し、これらを改めようが見直しを進めている。

- ・ 県内類似団体との比較でも本市の職員数は、平均的な職員数よりも下回っている。今後も厳しい財政状況が予想される中、義務的経費に占める割合の高い人件費は、抑制しなければならないが、複雑多様化する市民ニーズや新たな行政需要に対応できる効率的な組織を維持するためには、それ相応の職員数が必要とされている。
- ・ このような状況を踏まえ、効率的な行政を推進するための定員管理の在り方ということで、長期的な組織運営に必要な人材の計画的な確保ということを人事部局で考えている。具体的には、定年退職者数分の欠員を新規採用することで平準化し、年齢の偏りをなくす採用への転換である。

宮田委員

- ・ 地域防犯（青パト）、コミュニティ協議会、老人会等補助金がいっている出ていると思うが、本当に必要なのか。

事務局

- ・ 地域防犯推進員や地域防犯活動団体の活動には、行政としても大変にありがたく感じている。防犯にとっては、地域目、監視目というのは非常に重要。地域の力として効果のあるものと感じている。

大久保委員

- ・ 少子高齢化、人口減少問題により、将来における生産労働人口が減少することで税収が減少する。競争社会の中で市がどう取り組んでいくか考える必要がある。行田市の人口減は、市民として一番の懸念材料である。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少対策に市を挙げて取り組んでいるが、行田市の売りが何かを見極めて発信すべきと考えている。 例えば、全国的にも様々な自然災害が発生している状況の中、本市において大きな災害を受けてない事実を発信すべきと考える。
大野委員	<ul style="list-style-type: none"> 都内の中学校に通う子供が増えていると思う。親が幼稚園を選ぶのに、教育内容を重視する傾向にある。行田で子供を育てたいと思えるような、教育をはじめとする取り組みがほしい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> 災害のないまちも大事であるが、教育も重要である。特に、小中学校の教育に力を入れるべきである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 東小学校では、足袋教育を始めており、様々な視点で少しずつ教育環境の充実を図っている。すぐに結果が出るものではないが、期待してほしい。
阿久津会長	<ul style="list-style-type: none"> 本市の教育の問題は、小学校の統廃合問題があり、なかなか進まない。補助金の見直しとして、特にコミ協の件は、県南のコミ協、県北の自治連というようにそれぞれの団体で中身は同じようなことを行っている。本市においては、コミ協の見直しが必要と思う。小学校の統廃合も早い時期に行ってもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 改革推進室としては、本市の行財政改革の旗振り役として取組みを強化する。 資料3「行田市行財政改革プログラム」（平成29年度取組実績）の内、その他の効果について説明
阿久津会長	<ul style="list-style-type: none"> 今の説明に対し、ご意見・ご質問があったらお願いします。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> 45ページに職員提案制度の活用とあるが、一般市民の公募を加えたらどうか。官だけでなく、民を加えたら良い提案が出るのではない

事務局	<p>いか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実行に向けて検討したい。 ・ 採用事業を紹介する。年に数回の土日に全国からコスプレイヤーを呼び寄せ、本市をコスプレの聖地にしようとする取組み「和装コスプレで巡る日本遺産」である。加えて「行田市フォトジェニック化事業」として、写真映えのする写真スポットを市外に発信し、市外からお客様（コスプレイヤー等）に来ていただくとする事業である。若手ならではの斬新なアイデアであり、桜の時期などは、大勢のコスプレイヤーで市内の桜の名所が賑わっている。
阿久津会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に何か、ご意見、ご質問はあるか。 ・ 行政改革推進委員会の今後の予定はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本委員会の定例的な開催は、臨時的のものは随時日程調整の上開催をお願いしている。現在のところ、今年度の臨時的開催は予定していない。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ページに不用図書の売却のような小さい効果のものをプログラムに位置付けるのではなく、10 万円単位や 100 万円単位の効果があるものを議論すべきではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討したい。
阿久津会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に意見がないようなので。議題のその他について事務局に説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日報告した取組実績については、市報 8 月号で市民への周知を図るとともに、また詳細な取組実績について、市HPにより広く公表する。

阿久津会長	・ 他に意見がないようなので、以上をもって本日の議事を終了する。
事務局	・ 事務局としても皆様からの意見をもとに今後も行財政改革に取り組んでいく。以上をもって、平成 30 年度第 1 回行田市行財政改革推進委員会を終了する。 (閉会)